

## 2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 宮城県富谷高等学校 ] 担当教諭名 [ 八島 美央 ] ( ECC 国際部 11名 )  
 相手国・地域 [ スロバキア ]  
 海外学校名 [ Secondary School of Scenic Art ] 担当教諭名 [ Pavel Michalič ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単元名	時間数
	部活動	ECC 国際部	30

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	SDGs #13 気候変動に具体的な対策を
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	・現在の世界で起こっている「気候変動による影響」が、危機的な状況であることを示すために、尖った破片の構図の中に、様々な場面を描いた。また、壊れかけている地球を絵の真ん中に描いたことで、そのメッセージ強調させた。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回で5回目のアートマイル参加となったが、例年と同様に、相手国が生徒にとっては馴染みの無かったスロバキアという国を知ることからスタートした。相手国の生徒のうちの1人が、日本を訪れたことがあるということから、相手に親近感を抱ききっかけになり、スロバキアについて調べることに楽しみができたようだった。</li> <li>・絵に込めるメッセージを、気候変動の問題としたので、それについて色々な側面から学んだり、考えたりする時間を持てたことが一番大きな成果である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校からの投げかけに対する相手校の反応に時間がかかり、相手校が日本について学んでいる様子や、気候変動について学んでいる様子が見えなかった。そんな中で、こちらのペースで進めているだけでは、きちんとした共有になっていないのではないか、という心配もあった。</li> </ul>

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らないが故に関心が無かった国について、知るきっかけをいただいたことで、新たな興味につながったようであった。</li> <li>・アートマイルは異文化交流と異文化理解であると思っていた生徒達が、プロジェクトを進めていくにつれて、それだけのものではないということ、自分たちで気がついていったのは大きな変化である。具体的には、我々がいま抱えている問題を知り、また、その問題からまたどのような課題があるのか、ということを知っていく中で、世界が抱える問題について改めて向き合うきっかけになったようであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手国については、私自身も知識が乏しかったため、生徒と同じペースで学びをする機会を得たことで、新たな学びとなった。</li> <li>・SDGsについては、本校では学校全体として学びに取り入れていたので、生徒は世界の状況について当然危機感を持っているであろうと思っていた。しかし、学びを進める中で、知っていることと、危機感や問題意識を持たせることには大きな違いがあるということに気がつくことができた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 ～ 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校のメンバー達の紹介になるものを作成した。内容は以下である。</li> <li>○メンバー全員の集合写真</li> <li>○メンバーの個人写真</li> <li>○手書きの自己紹介カード</li> <li>○本校の校舎内の写真や学校行事の写真を、英語字幕でまとめたパワーポイントのデータ</li> <li>・相手国の地理・音楽・食べ物・言語・歴史・政治・宗教・自然などについて、本校のメンバーが個人毎に調べて、その内容を全メンバーの前でプレゼンする形で、本校内で共有をした。その学びの様子を、相手校に写真で伝えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手校のメンバーのうちの1人が、日本を訪れたことがあるということで、訪問時の写真がフォーラム上に紹介された。そのことを知って、とても喜んでる様子だった。</li> <li>・今回は、相手校が日本や日本の文化についての学習をしていたかどうかはこちら側には分からなかった。自分たちの国がどのように見られているかを知ることが出来なかったのも、この点については残念そうであった。</li> </ul>	部活動 10
共有 テーマ学習	10月 ～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs13番の気候変動の問題、そこから派生する他のSDGsへの影響などをメンバーで調べて学習した。本校での学びの様子とまとめをPower Pointで作成し、相手校に伝えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では、SDGsについては以前から学習の中に取り入れてはいた。しかし、各ゴールの中身や169のターゲットについて、または今回のテーマである気候変動について、メンバー同士で深め合えたことで、大きな学びになったようであった。この点は、今年のアートマイルでの、一番の学びになったようであった。</li> </ul>	部活動 8
融合 メッセージ作成	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁画の区切り方やデザインのベースについて、本校生徒同士で何度も意見を共有した。気候変動の危機感を伝えるために、地球と、パズルのピースの案が出てきたので、そのアイデアを相手校に伝えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的なテーマや構図を決める上で、生徒たちが話し合う機会を設けた。下絵に入るまでの段階で時間を要したが、この時間をじっくり取れたことは生徒にとっては大事な時間になったようであった。</li> </ul>	部活動 4
創造 壁画制作	12月 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壊れかけている地球を壁画の中心に置き、その周辺に、世界で起きている気候変動の状況を、尖った形のパズルのピースの中に描くことで危機感を持たせる、という下絵を完成させた。その下絵を基に壁画の色塗りをした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで学んだことを、どのように絵で表現していけば良いかを考えながら、作業を進めることができたようであった。</li> <li>・相手校の生徒達がアート系であることから、画力の違いということが例年以上に気になったようで、筆を進めることに躊躇する場面も見られた。</li> </ul>	部活動 5
評価 振り返り 自己評価	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般生徒や来校者に見てもらえるように、生徒昇降口付近に壁画を展示した。</li> <li>・生徒向け通信(ニュースレター)の中で、アートマイルの取り組みを紹介した。</li> <li>・アートマイルメンバー全員にアンケートを実施し、自己評価や成果、課題についての振り返りを記入させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戻ってきた作品を目にした際には、自分達の画力不足の点を相手校のみんなが補ってくれていたことで、大歓声であった。</li> <li>・自分達では絵の中に伝え切れなかったことを、相手校の生徒達が描いてくれていたことで、大変喜んでた。</li> <li>・自己評価シートの中で今後の課題として目立ったのは、今回のアートマイルで学んだことを具体的にはどのように生かしていくべきか、という点であった。また、物事に対する視野を広げていかなければいけないということも課題として持っている生徒もいた。</li> </ul>	部活動 1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	2	相手国が日本について学びをしている状況が見えなかったため、日本の文化がどのように相手から見られているのかを知る機会が持てなかった点で、例年に比べると低い評価となった。
異文化を理解する力	4	インターネットや相手国からの情報、書籍などを通じて、スロバキアという国や文化を知る機会を持てた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	例年と同様に、自分達が調べた相手国のことを文化祭で展示する機会をもてた。また、アートマイルの取り組みや課題の設定や学習の様子などを、全校生徒に周知できる時間が取れたので、昨年よりも良かった。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	2	Skype交流やテレビ会議の機会を持てなかったため、昨年よりもこの部分においては評価点が低くなってしまった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	自国の文化と相手国の文化を比較する機会を設けることができなかったため、日本と相手国の文化の違いを調べて発表することも大切だと感じた。
主体的に考え行動する力	4	相手国を調べたり、壁画を作成したりする場面において、グループで話し合い、そこから自分たちの考えをテーマに沿ったものへ形として表すことが出来たように思う。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	相手国の調べ学習を行う際、分野毎にグループを作成し、協力して作業を進めることができた。また、各自の学習の成果を、メンバー全員で発表し合うことが出来た。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	テーマに沿った調べ学習をすることができた。またそのテーマをどのような絵で表し、メッセージを込めるのかという点についても、あまり苦勞せずに進めることができた。相手校からの意見の反応が見えていたら、そこから更に話し合いを進めることができると思うので、来年はそのように進めたい。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	生徒のアンケートより、異文化を理解しようとするだけでなく、絵にメッセージを込めるということの意義や気づきが見られ、今回の取り組みの成果を肯定的に捉えている意見が多く見受けられた。